

養成医かわら版

NEWSLETTER

自己紹介

名前：池田 彩

勤務先：公立豊岡病院

診療科：消化器科

卒後：9年目

経歴：2017年 兵庫医科大学を卒業後、市立西脇病院で初期研修、公立宍粟総合病院内科で1年間前期派遣、八鹿病院で2年間前期派遣、神戸大学医学部附属病院消化器内科で2年間後期研修の後、公立豊岡病院消化器科で後期派遣中。神戸大学大学院医学研究科消化器内科学分野博士課程1年目在籍中。

2017年3月 兵庫医科大学卒業

2017年4月～2019年3月 市立西脇病院(初期研修医)

2019年4月～2020年3月 公立宍粟総合病院 内科(前期派遣)

2020年4月～2022年3月 公立八鹿病院 内科・総合診療科(前期派遣)

2022年4月～2024年3月 神戸大学大学院医学研究科消化器内科学分野(後期研修)

2024年4月～ 公立豊岡病院消化器科(後期派遣、医長)

2023年 内科専門医

2024年 日本消化器病学会専門医

2025年 日本消化器内視鏡学会専門医



【内科(消化器内科)を目指した経緯】

私が消化器内科に興味を持ち出したのは、大学生の頃に実習で内視鏡検査を見た時で、面白そう、やってみたいと思ったことを記憶しています。自分の手技1つで出血が止まる、というような、外科的な側面も持つ消化器内科が素敵だなと思いました。実際に初期研修医時代も内視鏡検査に携われる市立西脇病院でお世話になれたこともあって、私はこれでいくんだ、というイメージが自然にできていったように感じます。早期からその希望を訴え続けたこともあり、現在まで、消化器内科が積極的に診療している施設に行かせていただいたことはとても恵まれていたと思っています。

【初期研修(市立西脇病院)】

市立西脇病院で2年間お世話になりました。西脇病院は、地域で周りに搬送する高次医療機関に限られるという事情もあり、非常に幅広の疾患を「内科」として広く診療されていました。上の先生方は、私が経験した他の病院のどこにもないほど、なんでも診ておられました。(糖尿病内科・消化器内科・老年内科の大変お世話になったオーベンが、内科診療を幅広くされて、糖尿病外来もESDも研修医の指導もされてという尋常でないスーパーマンであったのですが、その先生の凄さは病院を離れてからいっそうよくわかりました。お世話になりました。)

【初期派遣(公立宍粟総合病院→公立八鹿病院)】

宍粟総合病院は科の垣根が低いアットホームな職場でした。消化器の処置をしたいとはじめからお伝えしていましたので、下部内視鏡検査の機会も与えていただきました。

八鹿病院に移ってからは、同期や近い年次の仲間に恵まれました。1人でCVを入れようとしているとみんなが自然に集まってくれることに感動したことを今でも記憶しています。総合診療科・一般内科を担当しつつ、消化器内科の処置に毎日入らせていただきました。下部内視鏡は八鹿病院での2年間で多く経験させていただき、そこそこの自信がついた状態で6年目の大学病院研修に行ける状態になりました。

内科といえばJ-OSLER問題が有名かと思いますが、私はJ-OSLERが始まって2年目の年でした。3、4年目はやる気が出ずに数件の登録のみにとどまり、5年目に入ってから「これは大変かもしれない」と遅ればせながら気づき、3ヶ月で28症例の症例要約を書き、添削してくださるオーベンにご迷惑をおかけしました。あの症例要約はなかなかの精神修行だったと思いますが、ご存知の通り内科専門医を取らないと次に進めないの、コツコツ進めていくことをお勧めします。

【神戸大学医学部附属病院での消化器内科研修】

消化器内科として研修がはじまり、はじめは「消化器内科医」を名乗ることにさえ怖さを感じていましたが、教えてくださる先生方は非常にお優しく、安心して勉強できる環境でした。

1年目は各グループをローテートして勉強し、2年目は炎症性腸疾患(IBD)グループに属して勉強しました。学会発表の機会も多く与えていただき、初めて海外の学会で発表したのもとてもいい思い出になりました。

これまでは、自分が消化器内科をしたいものの、何を勉強してどうやって生きていったらよいのかとぼんやりとした不安を抱えていましたが、この研修後半でそれがはっきりし、IBDを専門にできるように勉強していきたい、と思うに至りました。大学という専門機関だからこその考えであるとは思いますが、内科から専門の科に進み、その中でもさらに専門の分野を持つことで、自分自身のモチベーションや自己肯定感に繋がるように思います。その上で、その専門領域にとどまらずに幅広く診療をしていくことは、地域医療と相反するものではないと私は思います。

私自身、神戸大学に行くまでは大学院に入ることなど全く考えたこともなかったのですが、2年間の大学での研修を終える前だったか、「専門と言えるものを持ちたい、大学院に入って勉強しよう」と次第に考えるようになり、翌年に大学院を受験することとなりました。



(タイのAPDW(Asian Pacific Digestive Week)にて)

【公立豊岡病院 消化器科について】

豊岡病院に、県養成医としては初めて「消化器科」の医師として働かせていただくことになりました。今まで市中病院の消化器内科として勤務したことはなかったので、これも初めはドキドキで、これまでで一番不安な異動でした。実際に働き出してみると、先生方にとても優しく教えていただき、今までしたことのない処置もどんどん入らせていただけました。これまでほぼ眺めていた処置(EUS(超音波内視鏡検査)の観察やドレナージ、POCS(胆道鏡検査)など)を実際に教えてもらいながら勉強できています。なかなかこのような施設は市中病院でも少ないと思います。平日は遅くまでの日が多いもののon-offがつきやすく、とても充実しています。消化器内科医としての一通りの処置に加えて、高次医療機関に限られる処置も経験でき、自信もつくと思うので、この消化器科への派遣はぜひ消化器志望の後輩につながってほしいと個人的に強く願っています。



【終わりに】

今私が住んでいる豊岡市は、ご存知の通り 夏は猛暑、冬は大雪になることがしばしばではありますが、飲食店なども数多くあり、自然豊かな住みやすい環境です。つらい雪の日も、家の隣の方が雪かきを協力してくださったり、病院の駐車場を施設課の方が懸命に除雪してくださっていたりと、人のあたたかさを感じることが多くあります。

豊岡病院は、救急外来では救急科の先生方がしっかり初期対応をしてくださり、また、外来や放射線科のスタッフもみんなどうすれば業務がうまくまわるかを考えてくださり、協力して仕事できています。但馬は遠いしなあ、と思っている方もいらっしゃるかもしれませんが、そんなに遠くないです(神戸へも大阪へも車を飛ばせば(!?)2時間ほどで着きます)。気になる方はぜひ一度見学にいらしてください。

地域紹介をメインにすべきところなのですが、自分のこれまでの振り返りにほぼなってしまいました。

養成医制度のこと、科の選択のこと、今後のキャリアのことなど、いろいろな悩みを抱えている方もいらっしゃるかもしれません。特に内科、消化器内科で考えておられる方、私でよければ相談に乗りますので、ご連絡くださいね。